

学校施設の現状について

本市には、7校（小学校4校、中学校3校）の学校施設があります。耐震化は実施済であるものの、特に中学校については、高度経済成長期の昭和50年代以前に建築されたもので老朽化が進んでいることから、計画的な施設整備を図り、安全・安心な学校施設のもと、児童・生徒が学び生活できる環境が重要です。

また、単なる施設整備にとどまらず、ICT教育等の新しい時代の学びの環境を整え、児童・生徒にとって「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることが、多様化する児童・生徒のニーズに応え、全ての子ども達の可能性を引き出すために大切になります。

学校本来の目的である「人間形成」と「学力向上」を達成できる魅力ある学校づくりの推進のため、今後のより良い学校のあり方について検討し、児童生徒の推移を見極めながら「学校規模の適正化」や特色や魅力を発揮できる「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方」について検討を進めていく必要があります。

■ 小学校の現状

普通学級数は、建設当時と比較し2学級減少。支援学級数は、建設当時と比較し大幅に増加傾向

No	学校名	建物延床面積 (㎡)	土地面積 (㎡)	建設当時の学年教室数 ()は現在の教室数							主要建物 建築年度 (築年数)	主要建物 耐用年数 到来年度	主要 建物構造
				1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	支援学級			
1	上山小学校	7,800	31,891	3 (2)	3 (2)	3 (2)	3 (2)	3 (3)	3 (2)	2 (6)	平成26年度 (築10年)	令和43年度	鉄筋コンクリート
2	南小学校	11,477	41,324	4 (3)	4 (3)	4 (3)	4 (3)	4 (3)	4 (3)	2 (5)	昭和53年度 (築46年)	令和7年度	鉄筋コンクリート
3	宮川小学校	2,773	12,059	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	昭和56年度 (築43年)	令和10年度	鉄筋コンクリート
4	中川小学校	4,936	19,226	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (2)	平成5年度 (築31年)	令和22年度	鉄筋コンクリート
合計		26,986	104,500	9 (7)	9 (7)	9 (7)	9 (7)	9 (8)	9 (7)	7 (15)	※中川小は2・3年生が複式学級		

■ 中学校の現状

現在の普通学級数は、建設当時の約半分。支援学級数は維持（南中）または、増加傾向（北中）

No	学校名	建物延床面積 (㎡)	土地面積 (㎡)	建設当時の学年教室数 ()は現在の教室数							主要建物 建築年度	主要建物 耐用年数 到来年度	主要 建物構造
				1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	支援学級			
1	南中学校	7,368	33,357	6 (3)	6 (4)	6 (3)	—	—	—	2 (2)	昭和35年度 (築64年)	平成19年度	鉄筋コンクリート
2	宮川中学校	5,100	29,895	2 (1)	2 (1)	2 (1)	—	—	—	2 (0)	昭和34年度 (築65年)	平成18年度	鉄筋コンクリート
3	北中学校	8,697	48,341	6 (3)	6 (3)	6 (3)	—	—	—	2 (3)	昭和47年度 (築52年)	令和元年度	鉄骨鉄筋コンクリート
合計		21,165	111,593	14 (7)	14 (8)	14 (7)	—	—	—	6 (5)			

■ ICT教育環境の現状

第1期GIGAスクール構想（令和元年）で整備したネットワークや教員・児童生徒用端末等のICT環境の多くが令和6・7年をもって更新時期を迎える。また、運用を進めたなかで、端末動作の遅さなど教員の働き方や授業への運用等で様々な課題を抱えている。

これらの課題を解決し、誰一人取り残すことのない個別最適な学習及び協働的な学びの実現、教職員の働き方改革等を図ることを目的に、教育委員会で次期ICT教育環境について検討を進めている。